

【報道資料】

2022年11月2日
TD SYNnex 株式会社

**TD シネックス、クラウドネイティブのアプリケーションに最適な分散 SQL データベース
YugabyteDB を CoE（センターオブエクセレンス）が提供する
データライフサイクル・ソリューションに採用
～ 「TD SYNnex Inspire Japan 2022 Tokyo」開催記念対談。
日本のクラウドシフトの現在地と進むべき未来 ～**

TD SYNnex 株式会社(本社：東京 代表取締役社長：國持重隆、以下「TD SYNnex」)は、ソリューションの評価・検証・実装をサポートする「Center of Excellence」(以下、CoE^{*1})のアナリティクスソリューションに、クラウドネイティブのアプリケーションに最適な分散 SQL データベース、YugabyteDB を 2022 年 11 月より採用することを発表いたします。

YugabyteDB を CoE に採用することで、パートナーや顧客に CoE のデモセンターでソリューションの評価・検証をご提供します。



* 1 TD SYNnex が「Center of Excellence」(CoE)を開設

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000101.000034623.html>

Yugabyte は、Fortune500 の企業の多くでミッションクリティカルなワークロードで採用され続け、コンテナやマイクロサービスなど、分散データベースを世界でリードしています。日本市場への本格進出 1 年を経て、米本社 TD SYNnex Corporation が 2022 年 4 月に Yugabyte と提携した経緯を受け、日本においても TD SYNnex は、クラウドネイティブのアプリケーションに最適な分散 SQL データベース、YugabyteDB の販売を開始いたしました*²。

*2 TD シネックス、クラウドネイティブのアプリケーションに最適な分散 SQL データベース YugabyteDB を提供開始
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000089.000034623.html>

Yugabyte は、分散 SQL を、日本を含むアジア地域に普及させることに尽力しており、昨年（2021 年）には東京に新しいオフィスを開設するなど、アジアで大きな成長を遂げています。

このたび、来る 11 月 10 日に開催する「TD SYNnex Inspire Japan 2022 Tokyo」を記念して、Yugabyte, Inc. VP of Strategy and Marketing である Suda Srinivasan 氏と、TD SYNnex Vice President 常務執行役員 伊藤 弘泰による対談を行いました。「クラウドネイティブ後進国」といわれている日本において、次世代 DX、クラウドネイティブの鍵を握る 2 社による特別対談インタビューとなります。

■プロフィール

Suda Srinivasan

Yugabyte VP of Strategy and Marketing

オープンソース分散 SQL データベースのリーディングカンパニーである Yugabyte, Inc. にて戦略およびマーケティング担当副社長。マイクロソフトと IBM アルマデン研究所でエンジニアリングのキャリアをスタートし、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校でコンピュータサイエンスの修士号を、スタンフォード大学で MBA を取得。Yugabyte 入社以前は、クラウドセキュリティ企業の Obsidian Security と Dome9 でマーケティング担当副社長を務める。Dome9 では、市場参入の実行と大手クラウドプロバイダーとの技術提携を主導し、2018 年の Check Point による買収まで、同社の大幅な前年比成長を推進した。Nutanix と Deloitte では、製品マーケティングとコンサルティングのリーダー職を歴任。



伊藤 弘泰

TD SYNnex 株式会社 常務執行役員

国内外の IT 関連企業に従事、香港最大のテレコム企業での駐在経験を経て、2008 年デル株式会社（現 DELL Technologies）に入社。Online Business Manager lead としてオンラインビジネスに特化したコンサルティングを担当。2017 年シネックスジャパン株式会社（現 TD SYNnex 株式会社）入社、マーケティング部門、プロダクトマネジメント部門を統括。2022 年 4 月より TD SYNnex 株式会社、常務執行役員。



■ YugabyteDB が生まれた 3 つの理由

――まず、日本における DX やクラウド活用の現状について教えてください。

――伊藤

「日本の DX はアメリカより 10 年ほど遅れていると言われていますが、新型コロナウイルスの影響でそれも変わりつつあります。リモートワークの普及や SaaS の隆盛により加速してはいるものの、特にデータサイエンティストやエンジニアなどの人材不足は DX が進まない大きな要因となっており、国策として育成していく必要があります。また、企業側でもデータをどう扱うかが明確になっていないことも多く、弊社としても積極的にコンサルティングを提供しています。」



「当社は昨年世界 3 位だったシネックスと Tech Data が統合して TD SYNnex となり、IT 商社としてはグローバルで世界ナンバーワンの規模となりました。世界中にさまざまな技術のエキスパートを抱えているので、11 月 10 日に開催する TD SYNnex Inspire Japan 2022 などのイベントなどを通して、世界で日々生まれるベストプラクティスを日本に持ち込み発信しています」

――Yugabyte は昨年日本に進出されていますが、改めてコーポレート全体の戦略や先行している北米市場、海外と日本市場の差異などについて教えてください。

--Suda

「Yugabyte は『YugabyteDB』という分散 SQL データベースを提供している会社です。YugabyteDB はオープンソースのクラウドネイティブデータベースであり、トランザクション系のワークロードに対応可能です。分散 SQL データベースが市場を席巻するとの見込みから、Apache Cassandra（オープンソースの分散データベース管理システム。データベースの主流であるリレーショナル型（RDB）と異なる構造を持つ、NoSQL 型システムの一つ）に造詣が深い元 Facebook のエンジニアによって設立されました。



その当社から見て、過去 10 年を振り返ると、アプリケーション開発が大きく変わりつつあります。銀行や通信、小売といった企業においてもオンプレミスからハイブリッドへの移行が進み、完全にクラウドへ移行した企業もあります。アプリケーション開発のニーズが変化し、いわゆる単一のモリシックなデータベースから、一分でデプロイが可能な俊敏性や、ゼロダウンタイム、スケーラビリティといった要素が求められるように変化しました。これまでの Oracle Database や SQL Server、DB2 といったデータベースではこうしたクラウドネイティブに必要な要素への対応が難しく、YugabyteDB が生まれたという背景があります。

ビジネス観点でも当社が生まれた 3 つの要因が存在します。ひとつは Database as a Service (DBaaS) という考え方が生まれたこと。ほぼすべての企業・業界が Amazon、Google といったテックジャイアントに対抗を迫られる時代において、ビジネスにスピードが求められる度合いは日に日に増えています。そのため、企業はデータベースの管理に労力をかけたくないですし、できるだけ迅速に、素早く使いたいというニーズが生まれました。

2 つ目はセキュリティやプライバシー、データガバナンスに関する規制がより厳格になりつつあるため、これらの規制にデータベース側でも対応しようという動き。3 つ目は開発者の生産性向上という観点です。ビジネスにおいてはサービスや新機能をできるだけ素早く顧客に届ける必要がありますが、開発者がそうしたデリバリーをコスト、リスクともに低く行えるようなアーキテクチャのデータベースが必要だったのです。

TD SYNnex は世界中にエコシステムを持ち、グローバルでのプレゼンスも高く、日本企業の DX を推進してきた実績もあります。ぜひこれから一緒に市場開拓を進めていきたいですね」

■Yugabyte 日本進出から 1 年を経て見えたもの

――Yugabyte 日本進出から 1 年ほど経過しますが、今に至るまでの変遷と日本市場に対する期待は？

――Suda

「まだ 1 年という短い期間なので、TD SYNnex などパートナーとの関係構築を進めている段階です。きちんと段階を踏んで、パートナーと一緒に日本市場におけるビジネスを開拓していきたいですね。

日本では DX やクラウドシフトといったキーワードをよく耳にするものの、どれもがまだまだ始まったばかりです。特に、今後 10 年間では『データトランスフォーメーション』がキーになると考えています。



RDBという概念は1970年代に生まれ、誕生から50年近い年月が経っています。それだけ制約も多く、当時導入した企業にも変革が求められている。この変革を支援するために、TD SYNnexをはじめとしたパートナーとの協業は必要不可欠です。日本市場において、こういった企業がどのような変革を模索しているのか、潜在的なニーズはどのようなものか、どのようなユースケースがあるのかなどを特定していく作業が必要であり、それを共にできることがパートナーに求める一番の条件でもあります。まずはスモールスタートし、準備ができればその先にさらなる展開の加速もあるでしょう。

今後、すべての企業がマルチクラウド、ハイブリッドクラウドへ移行する時代が近づいています。彼らは単一ベンダーによるロックインを嫌います。TD SYNnexは、マルチクラウド、マルチデータセンターを取り扱っており、ベンダーロックインされたソリューションを提供することはありません。当社のデータベースを『Any Cloud（すべてのクラウド）』で運用可能なデータベースを展開するという方向性ともマッチしており、良きパートナーになってくれると期待しています」

■ Yugabyte × TD SYNnex 協業の理由とは

――両社から見た両社の魅力や、今回協業を決めた理由について教えてください。

――伊藤

「現在のSIerのマーケットでは26%ほどがクラウドビジネスであり、来年には47%、5年後には50%に上ると言われており、かなりクラウドシフトが本格的になりつつあります。先程Sudaさんが仰ったように、当社でもハイブリッドクラウド、マルチクラウドに注力しており、基本的に単一のベンダーのソリューションを提供することは考えていません。その中でYugabyteのようなクラウドネイティブに対応したデータベースは非常に重要と位置付けており、当社でも今後グローバルで投資を加速していきます。さまざまなお客様の声を聞いていますが、やはりデータ利活用、データモダナイゼーションに悩まれている企業が大変多いなか、Yugabyteのように汎用的なベンダーはなかなかおらず貴重な存在です」



--Suda

「TD SYNnex は DX をサポートしてきた歴史と、多様な業界との関係をお持ちです。クラウド移行のパートナーとして多くの企業に信頼されていますし、顧客の現状に合わせたサービスを提供できるケイパビリティがあります。クラウド移行は、必ずしもパブリッククラウドへの移行を意味せず、VMWare や OpenShift といったベンダーとも協業しながら進めなければいけません。その点で、顧客から高い信頼を得ている TD SYNnex との協業は価値あるものになると信じています」

--伊藤

「ありがとうございます。また、当社ではデータライフサイクルを大きなキーワードと捉えており、日本とグローバルでも今後大きな投資をしていく見込みです。DevOps のモダナイゼーションをはじめとした、企業のデータライフサイクルを包括的にサポートするため、当社の『CoE (Center of Excellence) 』という、顧客に対して複数の製品を組み合わせ、ソリューションとして提供するサービスを日本においても提供していきます。その中でも Yugabyte の製品は中心的なソリューションになるでしょう」



--Suda

「DevOps を考える上で、セキュリティは後から考えればよいという風潮に対して『Dev Sec Ops』、いわゆる開発環境に対して最初からセキュリティを組み込むという考え方も誕生しました。データドリブン・データファーストアーキテクチャを変革していくなかで、運用とセキュリティを分離するのではなく、最初から前倒しで組み込むことで、データライフサイクル全体を最初から設計しようという動きが加速しているのが、伊藤さんが仰っているデータライフサイクルマネジメントですね。」

データはエッジデバイスやデータセンターなど、さまざまな場所で日々生成されます。アプリケーションを開発する前に、データはどこでどう生成され、誰がどのような用途で使うのかを包括して扱えるアーキテクチャと言えるでしょう。たとえば自動車メーカーの GM は、車載データファクトリーという、車載データを一元化して管理する基盤を運用していて、これもひとつのデータライフサイクル管理の手法と言えます。TD SYNnex の CoE など活用し、最初からデータライフサイクルを包括的に考えることが重要です」

■「Think Data First」データを最初に考えれば成功は近づく

――両社の協業における今後の展望や、11月10日に開催されるイベント「TD SYNnex Inspire Japan 2022」について教えてください。

――Suda

「過去10年から15年を振り返ると、いくつものディスラプションの波が押し寄せました。破壊的な革命が起こるたびに、我々は市場に対して地道な啓蒙を行ってきました。地殻変動についていくためには、技術だけではなく、企業という組織が根本的に変わる必要があり、それはすぐには成功しないからです。

分散 SQL データベースという技術においても、トレーニングやオンボーディングなどの手厚い支援を通してお客様をサポートしていきます。11月10日に行われる Inspire Japan 2022 はその意味で、エバンジェリストとしての TD SYNnex と Yugabyte の役割を示す大きな機会です。実務に携わる開発者の方々も大勢来場すると聞いているので、地殻変動を推進するエバンジェリストとして盛り上げていきたいですね」



――伊藤

「Inspire Japan 2022 では、CIO ラウンドテーブルという販売店のエグゼクティブを招いたセッションを行います。アフターコロナにビジネスをどうしていくかを考えたとき、もう一段階 DX が必要というエンドユーザーは多数いらっしゃいます。そこをどう当社がお手伝いできるかを明確に示したいですね。Yugabyte のようなクラウドネイティブを推進する革新的な企業のサポートは何より重要です。」

「当社はもともと自らをグローバルディストリビューターと名乗っていましたが、近年ではよりお客様に価値を届けたいという思いから、ソリューションアグリゲーターと名乗るようにしています。TD SYNnex としては元年という節目でもあり、日本企業をどう元気にしていけるか我々のケイパビリティを改めて示すとともに、新しい TD SYNnex をぜひお見せしたいと思います」

――Suda

「最後に、クラウドシフトは組織のシフトである、と言わせてください。上から下まで浸透するように組織を変革していかなければいけません。AWS を導入してサーバーをクラウドに乗せるだけでは成功しないのです。これから DX を推進する企業には、ぜひ『Think Data First』（データファーストで考える）を合言葉にしてほしいと思います。データを最初に考えることで成功が近づきます」



■「TD SYNnex Inspire Japan 2022 Tokyo」について



当社は米国 SYNnex Corporation の米国 Tech Data Corporation との合併を受け、本年 1 月に TD SYNnex 株式会社に社名を変更しました。今回のイベントでは、「Next Generation IT～世界標準を日本へ、次世代 DX 展～」をテーマに、世界をリードするグローバルテクノロジーリーダー企業による最新製品・ソリューションの展示・講演を行います。

本年は当社の創設から 60 周年という節目の年に当たります。これまで当社が歩んできたビジネスを振り返りながら、グローバルディストリビューターである TD SYNnex が考える次世代の IT に関する展示を行い、2030 年に向けたインクルーシブな IT アクセスを実現するためのソリューションを紹介します。また、社名変更 1 周年による新たなスタートを祝して、TD SYNnex のアジアパシフィックよりエグゼクティブの来日講演や、著名人のゲストを招いた講演も予定しています。

Yugabyte 登壇セッション

「次のトレンドはデータ活用だ！業界リーダーが企業の抱える課題と活用のヒントを大公開」

14:00-14:40 セッション② | S-4

近々訪れると言われている「データ爆発時代」。データプラットフォームのトレンド、プラットフォーム構築におけるポイント、先進ユーザーの事例などを交え、ZDNet Japan 編集長がファシリテーターを務めるパネルディスカッション形式でお届けします。

登壇者：

Yugabyte ジャパン株式会社 カントリーマネージャー 松尾 達也 氏

H2O.ai inc. 日本法人代表 柿崎 修 氏

Cloudera 株式会社 ハイブリッドデータクラウド ビジネスデベロップメント日本責任者 三苫 周平 氏

朝日インタラクティブ株式会社 ZDNet Japan 編集長 國谷 武史 氏

開催概要

・名称

TD SYNnex Inspire Japan 2022 Tokyo

・会期

2022年11月10日（木）10:30~17:00（受付開始 10:00）

・会場

東京ミッドタウンホール（六本木）ホール A・B

（東京都港区赤坂9丁目7-1 ミッドタウンイースト B1F）

都営大江戸線「六本木駅」8番出口より直結

東京メトロ日比谷線「六本木駅」より地下通路にて直結

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩約3分

・公式サイト

<https://www.synnex.co.jp/inspire2022/>

・参加費

無料（事前登録制。公式サイトより登録。）

・主催

TD SYNnex 株式会社

Yugabyte について

Yugabyte は、グローバルなクラウドネイティブアプリケーションを構築するための、オープンソースの高性能分散 SQL データベースである YugabyteDB を開発・提供する会社です。YugabyteDB は、SQL クエリーの柔軟性、高性能、およびクラウドネイティブの俊敏性により、ビジネスに不可欠なアプリケーションを提供し、企業が複雑なデータインフラ管理ではなく、ビジネスの成長に集中できるよう支援します。サイバーセキュリティ、金融市場、IoT、小売、Eコマース、その他のバーティカル分野の企業から信頼を得ています。

www.yugabyte.com

TD SYNnex について

TD SYNnex 株式会社は、世界トップクラスの IT ディストリビューターである米国 TD SYNnex Corporation の日本法人です。世界 100 カ国、取引メーカー数 1500 社を超えるグローバルネットワークを強みに、従来の卸売ビジネス

に加え、国内外の製品やサービスを組み合わせて、お客さまのビジネスの課題に最適な IT ソリューションを提供するソリューションアグリゲーターです。

私たちはテクノロジーを通じ、日本のお客さまや地域社会に貢献してまいります。

(WEB) <https://www.synnex.co.jp/>

セーフハーバー宣言

本プレスリリースの記載には、米国 1933 年証券法第 27A 条及び米国 1934 年証券取引所法第 21E 条で定義された、「将来に関する記述」が含まれています。既知若しくは未知のリスク、不確実性又はその他の要因により、実際の結果が「将来に関する記述」として明示的又は黙示的に示された予測等と大きく異なることがあります。本プレスリリース中の「将来に関する記述」は、本プレスリリースの日付けの時点で有する情報を基に作成されたものであり、将来の事象や状況を反映するために、その記述を更新したり修正したりする義務を負うものではありません。

【本件に関するお問い合わせ】

〒135-8559 東京都江東区東陽 6-3-1 東京イースト 21 ビジネスセンター2F

TD SYNnex 株式会社

デジタルトランスフォーメーション&マーケティング部門

マーケティング本部

(e-mail) pr@synnex.co.jp

※掲載されている社名又は製品名は、各社の商標又は登録商標です。

©2022 TD SYNnex K.K.